

特集にあたって

都会から地方へ移住する若者が増えてきています。地方が魅力的に映る大きな要素の一つが、都会にはない豊かな自然です。そこで、今回は豊かな自然環境こそが最も大きな地域資源ではないかという観点から地域づくりを考えてみました。

現代は、環境（自然）への配慮なしには地域づくりを進めることはできない時代と言われています。地域には、豊かな自然という独自の資源があり、また、その地域の自然を熟知した人たちもいて、そうした人材もまた重要な地域資源です。

しかし、自然環境の保全活動は、経済的な利益を上げることには、なかなか直結しないことが多いのですが、地域が独自の地域づくりを進めていくためには、「地域自らが主体的となって取り組むこと」と「継続可能な体制づくり」が必要だと言われています。

今回の特集テーマである「地域の自然を守り、地域づくりに活かす」においては、コウノトリの保護増殖活動が、無農薬農業に結びついて、そこで収穫されるお米に付加価値をもたらす事例やヤギの飼育が癒し効果を発揮し、地域住民の交流の場となる事例、更には県内の地域資源の保全活動に長く取り組んでいる方々など、地域の自然を守ることにより住民が情熱をもって取り組み、自然と人間との共生を目指して、継続的な活動を進めている方々を取り上げています。

今回の特集により、それぞれの地域の貴重な自然環境が保全されるとともに、それらの自然を活かした地域づくりの取り組みが一層進められるように期待します。

えひめ地域政策研究センター

所長（専務理事）小池 賢治